



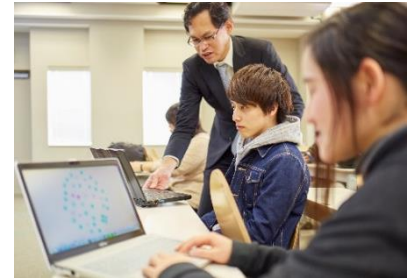
武蔵大学



## ビッグデータの読解力とイノベーション力を育成 グローバル・データサイエンスコース(GDS)～社会問題の解決へ向けて

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）では、社会学部に「グローバル・データサイエンスコース」(GDS)を新設。2017年4月より始動し、現在24名の学生が学んでいます。あらゆるデバイスがネットワークに接続される現代、企業や行政といった組織には、大量のデータが日々蓄積されています。こうしたビッグデータを、社会と結びつけて分析できる人材が求められるようになりました。

GDSは、新しい時代の世界共通語である「データ」の利用スキルと「英語」の両方をしっかりと身につけるよきばりなコースです。4年間の学びを通じて、広い社会的な視野と高度な社会科学スキルを持ち、データサイエンスへ対応するとともに、英語によるコミュニケーションが図れ、グローバルな視点を持つ人材を育成します。



### 学びのポイントと4年間の流れ

#### 1. 複雑な社会問題を

##### 徹底的にデータサイエンスする

「データサイエンス基礎」をはじめとしたデータ利用スキルに関わる科目はもちろん、社会学研究やメディア研究に必要な、社会調査や内容分析の方法論といった科目も数多く履修します。社会的な方法論に習熟した上で、確かな技術にもとづいた社会分析が実施できる力を養います。

#### 2. グローバルな視点と

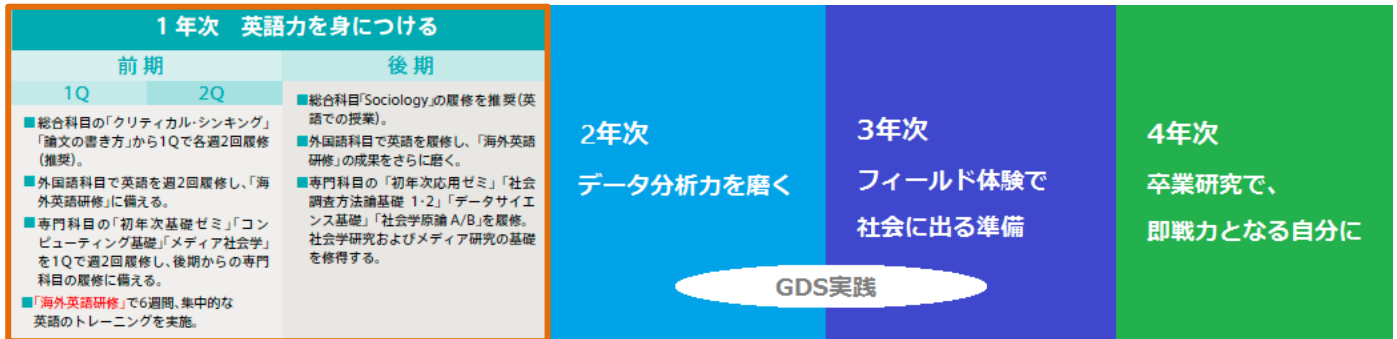
##### コミュニケーション力を養う英語学習

GDSでは、異なる文化圏での勉学を必須とすることで、グローバルな視点を持つ人材を育成しています。また定評あるゼミで、社会の課題を解決する対話力や共感性、調整力も鍛えられていきます。これらの学びと英語教育が相乗効果を生み、コミュニケーション力に優れた人材へ成長します。

#### 3. 6週間の特別な海外英語研修、さらに

##### 留学の推進とGDS実践で、実践力を強化

1年次には6週間の海外英語研修を含む、集中的な英語トレーニングが行われます。さらに2～3年次には協定留学や認定留学、あるいは国際ボランティア、国際インターンシップなどのグローバル体験・現場体験を行う「GDS実践」により、グローバルに活躍できる視野と能力を育成します。



### GDS 一期生の声！ (1年次)

GDSでは、社会学科とメディア社会学科の両方の科目が履修可能となるので、データサイエンススキルとともにより広く学べると思い志望しました。また、6月からは6週間の海外英語研修がオーストラリアであるので、英語力をしっかり身につけたいと思っています。



### 想定される卒業後の進路

GDSコース卒業者の進路としては、グローバル化する社会への対応が必要な企業、政府組織、非営利組織などが考えられます。そのなかでも、右のようにデータ分析を必要とする創造性の高い職種での活躍が期待されます。

- グローバル化に直接かかわる企業
- 国内観光産業
- NPO・NGO 職員
- 商社・金融・証券・保険業
- 広告代理店
- 国際機関職員
- 一般国内企業の海外進出部門
- 自治体職員
- 社会起業家 など
- 外資系企業の国内スタッフ
- まちづくり系企業
- 国内中小企業のグローバル対応人材
- コンサルタント(都市計画、人材育成)
- 教育機関のグローバル対応人材(国際センター、留学関連部門等)

### ■武蔵大学 【アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分】～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり、政財界で活躍した根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に「武蔵大学」の前身である旧制七年制武蔵高等学校を創設。その後の学制改革により、1949（昭和24）年4月武蔵大学（経済学部経済学科）開設。現在は、経済学部（経済学科/経営学科/金融学科）、人文学部（英語英米文化学科/ヨーロッパ文化学科/日本・東アジア文化学科）、社会学部（社会学科/メディア社会学科）の3学部8学科からなる文系総合大学。学長 山崎哲哉